

# 道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会  
事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2  
北海道開拓記念館内  
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

## 第42回北海道博物館大会 (枝幸大会)終える

平成15年度北海道博物館大会は、7月10日(木)、7月11日(金)の両日、枝幸町で開催された。

大会一日目は、枝幸町中央コミュニティーセンターを会場に総会、シンポジウムなどが行われた。総会では、平成15年度事業計画、予算案などが可決され、平成16年度大会の開催地が帯広市に決定された。表彰式では、仙台藩白老元陣屋資料館友の会、利尻町博物館協議会会長金田幹男氏の

両名が受賞の栄を受けられた。その後、日本博物館協会専務理事五十嵐耕一氏の特別報告「日本博物館協会の主要事業と最近の動向」をもって、午前の部が終了した。午後は、北地文化研究会会長の北構保男氏から特別講演「オホーツク文化の謎をさぐる」があり、続くシンポジウムでは「開かれた博物館をめざして—地域との連携をさぐる—」をテーマに3人のパネラーからの報告、全体討論が行われた(詳細は次頁)。

二日目は、オホーツクミュージアムえさし、三笠山展望台などを見学し、全日程を終了した。

## 道博協ミュージアム・マネージメント研修会 “10/23・24 小樽市で開催”

本年度のミュージアム・マネージメント研修会が10月23日(木)~24日(金)の両日、小樽市(ホテル・ノルド)で開催されます。

テーマは「博物館の集客技術と経営戦略」。地方財政力の低下などによる、さまざまな社会環境の変化は、国民の消費動向を鈍らせ、出控え、買控えを生み、博物館園も一般商業施設なみに利用者数を減らしています。そこで教育機関としての博物館園のあり方を視野に入れながら、利用者増につながるヒントを得るために道内外の下記講師を招き研修しようとするものです。

### 基調講演及びフォーラム講師

#### ○塚原正彦

(常盤大学コミュニティ振興学部・専任講師)

1962年生まれ、学習院大学経済学部卒、東京国立科学博物館企画係長を経て現職。

『ミュージアム集客・経営戦略』(1999年、日本地域社会研究所発行)は、博物館園の集客力にこだわった文献と評価が高い。

### フォーラム講師

#### ○大月ヒロ子

(ミュージアム・エデュケーション・プランナー)

文部科学省美術館博物館部会評議委員

1979年生まれ、武蔵美術大学卒、板橋区立美術館学芸員を経て1986年独立。

大阪府立大型児童館「ビッグバン」の総合プロデューサーを務め、現在同企画アドバイザー。

#### ○古沢仁

(札幌市博物館活動センター学芸員・理学博士)

1956年生まれ、北海道教育大学卒、小学校教諭、滝川市美術自然史館学芸員、沼田町自然史研究室などを経て現職。

札幌市博物館建設に向け、市民意識を高めるため様々な事業展開を図っている。

### フォーラム進行

#### ○佐々木亨

(北海道大学大学院・文学研究科助教授)

1983年生まれ、北海道大学大学院修士終了、北海道教育委員会社会教育課学芸員、道立北方民族博物館学芸員などを経て現職。

日本ミュージアム・マネージメント学会副支部長  
\*参加申込み等、詳しくは小樽市博物館または道博協事務局までお問合せください。

## 第42回北海道博物館大会に参加して ～熱きところに～

枝幸郡枝幸町の中央コミュニティセンターを会場として、平成15年度の北海道博物館大会が開催された。

概要については前頁に記されているが、ここでは特別講演及びシンポジウムについて報告したい。

特別講演は「オホーツク文化の謎をさぐる」をテーマとして、北地文化研究会会長の北構保男氏より、オホーツク文化研究史を軸として、オホーツク文化が、沿岸のトカレフ文化や古コリヤーク文化等の環オホーツク文化圏の一環として捉えられなければならないとの興味深い視点が示された。

シンポジウムは「開かれた博物館をめざしてー地域との連携をさぐるー」をテーマとして、利尻町立博物館学芸員の西谷栄治氏の司会により、3人のパネリストによる報告が行われた。

1、「上湧別町ふるさと館」JRYの事例」中島一之氏（上湧別町ふるさと館JRY学芸員）

上湧別町ふるさと館JRYでは、開館当初住民が反対したり無関心であったが、職員が「JRYニュース」を出したり、事務所を開放するなど、意図的に演出し演技することで住民を引き込み、地域への浸透を図っていることが報告された。

中島氏からは「博物館建設に反対の人でも、館及び職員とのふれあいの中で理解や協力が得られる」という貴重な体験談も語られた。

2、「地域素材を財産に」鈴木邦輝氏（名寄市北国博物館業務係長）

名寄市北国博物館では、地域の素材として、「身近なもの、大量にあるもの、邪魔にされているもの、磨けば光るもの」に焦点を当てることによって、マイナスイメージをプラスに変える努力を地域住民と共に進めていることが報告された。

3、「オホーツク文化と郷土学習」高島孝宗氏（オホーツクミュージアムえさし学芸員）

オホーツクミュージアムえさしでは、地域の教育資源として目梨泊遺跡出土品（平成12年重要文化財指定）を中心に、子供ミュージアムや竪穴住居の体験学習及び特別展やデジタル紙芝居等で、オホーツク文化の地域への浸透に努力していることが報告された。

3者とも地域との連携を図るために、それぞれ独自の方法で努力している姿がよく理解

できた。

厚岸町でも地域との連携を深めるために、「町全体が博物館」ということを念頭に置いて、海事記念館、郷土館、太田屯田開拓記念館を核としながら、高校を含む町内各学校への出前講座や総合的学習への取り組みを行っている。

幸いなことに、素材となるものには事欠かない地域ではあるが、地元の人達がそれに気付いていない。むしろ、気付こうとしていないのが現状である。その中で何をなすべきか、また、どのように地域とかかわればいいのかという事について、この2年間のシンポジウムでヒントを得たように思う。

明治維新の志士、高杉晋作の辞世の句で、「おもしろきこともなき世をおもしろく、住みなすものはころなりけり」とあるが、素材を生かすも殺すもその地域に住んでいる人の「ころ」一つであり、地に足をつけて歩いていくことこそが最善の道であるように思われる。

「開かれた博物館」というテーマは大きいですが、様々な人との連携をもって進んでいけば、必ず達成されるものであると確信する。オホーツク海を眺めながらの北上で道のりは遠かったが、大変意義のある大会であった。

（厚岸町海事記念館学芸員 熊崎農夫博）



シンポジウムの様子

石狩・後志・  
空知地区  
News

## 第57回特別展「北海道の基層文化を さぐる—北から南から—」開催中

北海道開拓記念館で開催中の特別展では北海道に残存した物質資料から、臼・杵類、編む技術と織る技術、運搬具、踏鋤、カンジキをテーマとし、これらがどの時代にどこか

ら伝わったか、あるいは発生したか、さらにはそれらがどのように継承されたかを可能な限り明らかにするため企画しました。実物資料は約200点で、道内資料が164点、本州資料が11点、朝鮮半島、中国などの海外資料が35点展示されています。

本州資料では臼が描かれている銅鐸（複製）、新潟県津南町のアンギン資料（国指定・重要民俗文化財）などを展示しています。また、海外の展示資料の内、代表的なものとしては、韓国の案盤と横杵、イラクのテル・サラサート2号丘出土（B.C.5000～4000年）のサドルカーン（馬鞍型



石臼)、中国の踏鋤などが上げられます。この案盤と横杵は餅搗き用のもので、日本ののし板に類似していますが、餅を搗くため板の厚さに著しい相違が認められます。サドルカーンは小麦の製粉用具としてメソポタミア文明やエジプト文明に多く出土していることが知られていますが、西アジアから東アジアに伝播したとされ、中国、朝鮮半島、ロシア沿海地方に出土していますが、日本列島にはいまだ出土していません。その理由は明らかにされていませんが、おそらく日本列島に伝わらなかったか、伝わったとしても小麦を製粉して食する文化を容易に受け入れなかったものとも考えられます。

これら本州、あるいは海外資料は、道内でも初めて公開されるものばかりですので、是非ご覧頂き、ご批判いただければ幸いです。（11月3日まで開催）（北海道開拓記念館 事業部長 氏家 等）

道南ブロック  
News

## 平成15年度道南ブロック博物館等 施設連絡協議会の活動について —総会および研修会の報告—

道南ブロック博物館施設等連絡協議会では、平成15年度総会および研修会を檜山管内上ノ国町で8月26・27日に開催しました。

1日目は、上ノ国町総合福祉センター「ジョイじょぐら」で32名の出席者が参集しました。13時30分から上ノ国町長工藤昇氏による文化財をとおした町づくりの主旨による歓迎の挨拶があったのち総会が始まりました。平成14年度に実施した事業報告と決算報告及び監査報告のあと、平成15年度の事業計画案と予算案が審議され、ホームページ開設のことや博物館マップ「ぐるっと道南博物館めぐり」の2年計画での作成、会員間の情報共有のため事業開催等の周知をはかることなどのほか、

各会員の事業開催のときには「後援・協力」などに会の名称を使用すること、そして次年度の



総会は両館市で開催されることなどが承認されました。また、出席者から学芸員は地域の教育者であることを自覚し、博物館活動で得た知識の還流を念頭に博物館教育を行うことが現在強く求められているという応援団的な意見がありました。

総会終了後の14時30分から研修会がありました。テーマは二つあり、一つ目は「地名という地域に残る文化財」で、上ノ国町教育委員会文化財課長の渡部孝之氏による『上ノ国町内のアイヌ語地名』と題し、ご自分の研究をとおして学ばれた地名を解釈するための方法論について話され、参加者一同興味深く聴き入っていました。二つ目は「鑑賞者が理解しやすい展示方法」というテーマにもとづいて上ノ国町で開催していた北海道開拓記念館の移動博物館を鑑賞しながら『北海道のうるし文化』の解説とその展示手法について」と題し、小林幸雄氏・舟山直治氏・水島未記氏の3人の学芸員により、移動展の解説や資料を傷めないように展示するやり方、そして鑑賞者に理解しやすい展示方法について具体的に話していただき、会員の今後の展示手法に好影響を与えたのではと考えております。

2日目は、松崎水穂学芸員の案内で旧笹浪家と史跡勝山館を見学してから調査事務所に行き発掘資料の展示を鑑賞して巡見を終え、2日間の日程を終了しました。

（知内町郷土資料館 学芸員高橋豊彦）

道北3管内  
News

## ～富良野市博物館～

## 森で遊び・学ぶ学習プログラム

富良野市博物館は、東大演習林と道立富良野・芦別自然公園に近接しており、当館では恵まれた自然環境を活用した博物館活動を展開しています。今年度は芦別岳の麓に広がる国有林内に自然散策路を整備し、自然体験学習のプログラムメニューの作成に取り組みました。

散策路は林野庁が国有林を自然学習・自然体験に開放する「遊々の森」事業を活用し、上川南部森林管理署と協定して、当館で整備しました。協定区域の森はキャンプ場、レストラン、宿泊施設、パークゴルフ場などがある「山部自然公園太陽の里」に隣接し、面積は50.78haに及びます。この森は「太陽の里・ふれあいの森」と名づけて、6月22日にオープンしました。

散策路は初心者向けの沢コース(2.0km)と軽登山を楽しめる尾根コース(2.5km)の2コースがあります。散策路は集材道や林道をできるだけ利用し、鬱蒼とした森の雰囲気味わえるように

整備しました。事前に申し込みいただいた方には、無料でガイドも行っており、学校や少人数の観光客などに利用していただいています。

この散策路整備と同時に、「富良野市生涯学習センター、学習プログラム」を発行し、富良野沿線の学校等の教育機関、団体に配布をしています。現在、小中学校の総合的な学習での利用が最も多く、他に教職員やPTAなど様々な団体の研修会等の利用があります。「学習プログラム」には「自然」「歴史」「文化」の3コース43種類のメニューがあります。詳細は富良野市生涯学習センターのホームページをご覧ください。

(富良野市博物館 学芸員 澤田 健)



「遊々の森」の自然観察会

日胆地区  
News日胆地区博物館等  
連絡協議会の動き

平成15年度日胆地区博物館等連絡協議会総会は、6月6日、穂別町立博物館を会場に23館園の出席をもって行われました。今年度の主な年次計画では、10月上旬伊達市で開催される第57回日本人類学会に対し、協議会として側面から応援しようと、研修会での参加を行うこととし、また『協議会ニュース』第14号を穂別町、同15号を静内町がそれぞれ担当し、発行することなどを決めました。さらに役員改選では、2期4年間務められて来られた苫小牧市博物館吉田国吉館長に代わり、会長に様似町郷土館水野洋一館長が選出され、意気込みが示されました。午後からの研究協議では「ミュージアムとまちづくりの正しい関係～白老町におけるイオル構想の策定過程を通じて～」と題し、アイヌ民族博物館中村齋館長に基調講演をお願いし、その後の全体討論では、イオルの候補地となっている静内町、平取町、白老町の取組みを紹介、意見・情報の交換がなされ、協議会として様々な面で強く関わって行くことを確認しました。



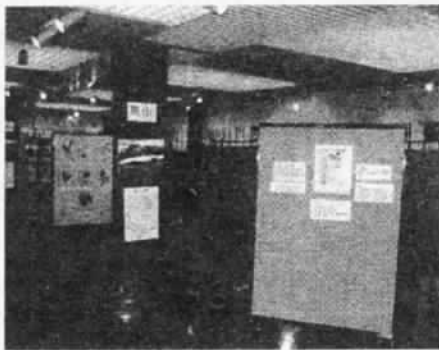
今夏、日高・胆振管内は、全国的な冷害に加え、台風10号・14号、さらには十勝沖地震などで被災した地域が多く、開催が危ぶまれましたが、10月4日から5日にかけて「アイヌ文化の継承・振興と博物館～歴史的系譜を学びながら～」をテーマに行われた研修会(前出の人類学会出席をメインに)には23名もの参加があり、登別市ネイチャーセンターふおれすと鉾山での「自炊宿泊」を通じ、レンジャーから自然との共生を主眼とした事業の組立てや、登別ヒグマ博物館でも野生動物との上手な付き合い方を学ぶなど普段からの備えと正しい知識の大切さを確認し、充実した研修を終えました。武永真(仙台藩白老元陣屋資料館)

追記

なお、本協会の8人の学芸員が、毎週水曜日の北海道新聞朝刊「苫小牧園」版に「とまにち博物館」として、自然・考古学・歴史・アイヌ文化などについて1年間にわたり執筆しています。

道東3管内  
News

## 帯広百年記念館企画展 「とかちの植物標本展」を開催



帯広百年記念館では、館収蔵の植物標本資料約一万二千点のうち、七百五十点余を抜粋して展示

し、多様な環境を持つ十勝の自然を表現すると同時に、植物標本のもつ文化遺産的意義、博物館の社会的役割を紹介することを目的に、八月二十二日～九月十五日に特別展示室を会場に開催し、約二千名の入場者があった。

展示は高山、山地、平地、まち、湿原、海岸の別に植物標本を配し、それぞれの環境に応じた種類が生育することを紹介した。また、「学芸員の部屋」コーナーを設置し、来訪者とのコミュニケー

ションの機会を設けたり、質問に展示物を直接利用しながら回答できるように工夫し、好評を得た。



関連行事では、体験教室「植物標本作りに挑戦」、自然観察会「原生花園ウォッチング」を開催し、標本作りの意義や方法に理解を深めたり、野外で楽しみながら植物全体や生態系へ視点を広げる機会を設けた。

なお、本展示の一部は百年記念館運営連絡協議会の移動展として足寄町（九月二十日～九月二十五日）、本別町（九月二十七日～十月二日）、土幌町（十月四日～十月九日）、忠類村（十月十一日～十月十六日）、浦幌町（十月十八日～十月二十三日）、音更町（十月二十五日～十月三十日）で展示・紹介する。

（帯広百年記念館 学芸員 北沢 実）

網走管内  
News

## 平成15年度網博協 研修会報告

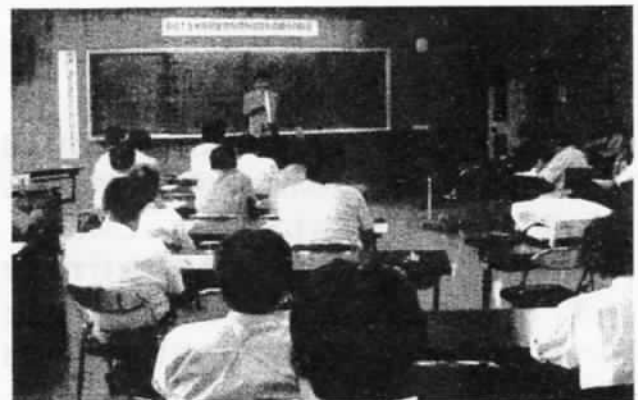
平成15年度網走管内博物館連絡協議会総括研修会が8月22日、北網圏北見文化センターで開催された。例年この研修会では、博物館に直接かわる課題ばかりではなく、社会をとりまくさまざまな分野からテーマを選び、その方面の専門家の方々から、概要から最新のトピックスまで貴重な話をいただいていた。一般の方々にも参加、聴講していただき、一緒に認識を深めていく公開講座としているのも特徴といえる。

今回は『防災』に焦点をあて、「地形地質から斜面災害を考える」を演題に、道立地質研究所表層地質科長の田近淳氏に講演いただいた。地すべり・斜面崩壊・土石流などの斜面変動の種類とそのメカニズム、地形地質から過去の変動や危険箇所を判読する、苫前町、津別町・本年夏の日高地方での台風災害などの具体的事例紹介という内容で、デジカメ画像を用いながらわかりやすく解説された。身近なところでも、このような災害が起こりうることを再認識した講演であった。

今回は総参加者70人、うち一般の参加者が46人と、いずれもこれまでで最多であった。この講演が、一般住民の災害予知や防災意識の高まりへの一助となればと考えている。また、地域博物館の役割としてこの分野に対しての取り組みの必要性も、あらためて認識が深まったと思われる。

講演終了後、開催中の美術企画展「版画の魅力7人の巨匠展」ギャラリーツアーが行われた。当センターの美術担当の齋藤知子学芸員の作品解説により、ゴヤ・シャガールらの連作を中心に、さまざまな視点から版画芸術を鑑賞してもらった。

（北網圏北見文化センター 担当 太田敏量）



「地形地質から斜面災害を考える」講演のようす。

学芸職員部会  
News

## 学芸職員部会の動き

9月11日・12日の2日間、根室市において平成15年度学芸職員研修会が根室管内展示施設連絡協議会との共催により開催されました。テーマは「地域学のスズメ・国後島を望む地域像」。

「急ぎ足の研修会にならず、時間を十分ににとるような研修会を」と渡辺好之根室市教育委員会教育長のご挨拶を得て、根室市在住の高田勝さんの講演がはじまりました。海から草原、そして森から林へと根室地域の自然を概観するお話は、会場の窓越しに展開する知床半島、北方四島の景観と相まって魅力的なものでした。「本州1~2,000メートルを圧縮して平面にしたような地域が根室」、この言葉が印象深く残りました。午後からは各地でそれぞれの活動を実践しておられる方々からの事例報告がなされました。春国岱ネイチャーセンター篠木秀紀さん「春国岱ネイチャーセンターの活動」、根室市博物館開設準備室近藤憲久さん「根

室のコウモリ」、別海町郷土資料館石渡一人さん「加賀伝蔵と文書館」、標津町ポー川史跡自然公園榎木光明さん「野付半島の遺跡」、羅臼町教育委員会湧坂周一さん「オホーツク文化住居址における木製品出土位置の検討」など各分野にわたる内容豊富なお話がありました。2日目は、根室市教育委員会借上のバスにて納沙布北方館、根室市郷土資料保存センターなどの施設を見学しました。道中、川上淳さんから通過する地域の自然、歴史、生活文化などの案内があり、前日の講演や報告と併せて2日間で根室地域が概観できました。

9日11日、研修会終了後部会総会が開かれました。提案しました議案はすべて承認されました。なお、部会発足25周年記念誌につきましては、原稿の集約がまだ半分以上滞っております。各ブロックを通じて、未提出の会員への原稿督促をいたしますので、ご協力をお願いいたします。

平成16年度の研修会は芦別市において開催いたします。6月頃を予定しております。

(学芸職員部会 矢吹俊男)

動物園・水族館  
News

## 動物園の苦悩

今、地球上の野生動物がすっかり減ってしまっ、絶滅しそうな種(絶滅危惧種)が10年前の4倍にもなったと言われている。

これと連動して、世界の動物園にもこれらの希少な動物が少なくなり、死亡してもなかなか補充できない時代になった。動物園にとっては死活問題である。どうしてそんなに減ったのか。地球環境の悪化と言ってしまうえばそれまでだが、その悪化の原因はほとんどが人間だという。

私がハナタレ小僧の頃(昭和25年=1950年)の世界の人口は25億人だったと言う。ところが、それから50年後の2000年には、61億人となった。実に2.5倍に膨れ上がったことになる。

そしてあと50年したら100億人に達するかも知れないという。こんな状況だから、地球もだんだん狭くなってきたのかも知れない。このため、動物園で飼う動物は、動物園で繁殖しなければならず、野生からの導入はほとんど不可能な時代となった。ところが厄介な事に、これらの希少動物の中にはペアで飼育していてもスムーズに繁殖し

ないものが多い。野生動物は、それぞれの種によって生態が全く異なる。群れで生活するもの、単独で生活するもの、高い木の上で生活するもの、広い草原で生活するもの、昼間活動するもの、夜行性のものなど千差万別である。

一昔前の動物園は、観客が見やすく衛生的であると言うことから、コンクリートと檻の狭い場所に動物を入れ、オス・メスのペアで飼育してきた。このことが、動物種の本래の生態に合わなかったのである。

一例として、昭和50年代ゴリラが道内の動物園で飼育され始め、札幌、旭川、釧路の動物園でご覧になった方も多いと思う。ところが、道内だけでなく日本全国の動物園でもあまり繁殖しなかった。ゴリラは、野生では群れで生活しており、群れで飼育しないとなかなか繁殖しないと言う事がわかってきた。そうは言っても、当時1ペア1億円と言う時代で、群れで飼育することができなかった。そのうち、ゴリラは次々に高齢となり、病に倒れるものも出て、現在道内には、円山動物園に高齢のオスが1頭残るだけとなった。悲しい事だが近い将来、北海道からゴリラがいなくなる日は、そう遠い事ではないかもしれない。

(円山動物園 種の保存担当部長 鎌田 實)

## 新館紹介

# 史跡ピリカ遺跡

## ピリカ旧石器文化館・石器製作跡

## □史跡整備にいたるまで

今金町には今から約2万年から1万年前にかけての旧石器時代の遺跡が数多く発見されています。この中でも、ピリカ遺跡は面積が20万平方メートルにおよび、道内の旧石器遺跡のなかでも有数の規模を誇るものです。

遺跡は美利河ダム建設に関連して発見され、昭和58・59年に本格的な発掘調査が行われました。この調査により、日本最古の玉製品、日本最大級の槍先形尖頭器など大変貴重な石器が出土し、平成6年に国の史跡として指定されました。その後この遺跡を保存し、活用するための整備計画を進めてきました。

平成12年度より事業に着手し、平成15年6月にオープンしました。

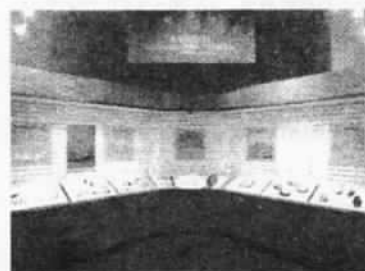
## □ピリカ旧石器文化館

遺跡の具体的な情報を知ることができる中核施設です。映像、展示、体験の3つの機能を有しています。

映像コーナーでは、遺跡の概要、旧石器時代の環境、生活の様子などを約10分間にわたりわかりやすく解説しております。

旧石器展示室は「人類の始まりと広がり」、「石器のいろいろ」、「石器をつくる」、「重要文化財」という4つのテーマに別れています。

人類の生命をつないだ石の道具—石器—は約250万年間もの長い間使われますが、この中でのピリカ遺跡の位置づけ、ピリカの旧石器人はどこ



「旧石器文化館展示室」



「石器製作跡」

から来たのか、などをパネルを用いて解説しています。また、当時の人々はどのような道具を用い、厳しい氷河期を生き抜いてきたのかを知ってもらうため、遺跡から出土したいろいろな種類の石器と推定復元した模造品を展示しています。

そして、展示のメインは重要文化財です。指定遺物163点のうちの143点を展示し、ピリカ遺跡がなぜ重要なのかを解説しています。

体験学習室では約20名が石器を作る体験ができます。「石刃をつくる」「やり先形尖頭器をつくる」「石製首飾りをつくる」など3か月ごとメニューを変えていく計画です。石器づくりを通して作る難しさ、使う楽しみ、そして旧石器時代人が身近に感じることができるよう体験学習事業を展開したいと考えています。

ボランティアが既に組織され、毎月第3土曜日午後の体験実施日には事業運営に協力いただいています。

## □石器製作跡

旧石器時代の遺跡を発掘しても、せいぜい跡跡が見つかるくらいで、柱の跡などは見つかりません。だから縄文時代の竪穴住居のような復元はできません。遺跡の中で旧石器時代を想像してもらうためどうしたら良いのか検討を重ねました。そこで、石器が集中して土の中から出てくる様子を見てもらうことにしました。石器製作跡は発掘調査により得られた石器の出土状態を原位置のまま観察できる施設です。発掘調査の方法、調査からわかること、石器の研究の手順などもパネル解説しています。

所在地：瀬棚郡今金町字美利河228-1

TEL/FAX:01378-3-2477

E-mail:pirikan@town.imakane.hokkaido.jp

URL:<http://www.hakodate.or.jp/imakane/pirikan/top.html>

入館料:大人200円(150円)

小中高校生100円(80円)

( )内は15名以上の団体料金

休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、

祝日の翌日、年末年始

開館時間：9時30分～16時30分

(今金町教育委員会 学芸員 寺崎康史)

休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)

12月～4月中旬

開館時間：9:30～16:30

(今金町教育委員会 学芸員 寺崎康史)

館・園の主な展覧会と普及事業

(2003年11月～2004年3月)

石狩

- 江別市セラミックアートセンター (011-385-1004)  
2月下旬～3月下旬 工房利用者作品展
- 札幌芸術の森美術館 (011-591-0090)  
10.26～1.18 北の創造者たち2003—虚実皮膜、1.24～3.28 森の美術散歩Ⅲ
- 札幌市豊平川さけ科学館 (011-582-7555)  
12月～1月 サケの赤ちゃんの誕生
- 北海道開拓記念館 (011-898-0456)  
12.16～2.15 第138回テーマ展「博物館の産業資料を読む」、3.2～3.28 第139回テーマ展「汽笛が響いたこの道一定山鉄道の思い出」
- 北海道開拓の村 (011-898-2692)  
11.1～30 開村20周年記念特別展「先人たちの故郷と北の大地に継承された生活文化」、11.2 わら細工講習会「わらじ」、11.16 わら細工講習会「ぞうり」、12.6・7 わら細工講習会「しめ縄」、1.31 講座「明治14年の政変をめくって①～黒田清隆と阿部興人～」、2.28 講座「明治14年の政変をめくって②～風刺画にみる開拓史官有物払下事件～」
- 北海道立文学館 (011-511-7655)  
11.1～12.14 特別企画展「函館・青森 海峽浪漫～(北の20世紀)を訪いだ作家たち～」、2.7～3.21 企画展「詩人・百田宗治の戦後～北海道に残したもの～」
- 北海道立近代美術館 (011-644-6881)  
11.22～12.3 北海道の書家、12.11～1.25 アミューズランド2004、2.6～3.21 SOUL OF ASIA、3.27～4.4 札幌アーティスト・イン・レジデンス展
- 北海道立三岸好太郎美術館 (011-644-8901)  
11.1～1.25 「全所蔵作品展示計画油彩展」、1.30～3.28 「新発見の三岸好太郎展」
- 札幌市博物館活動センター(011-200-5002)  
ミュージアム企画展「生きている化石」展、3月上旬 雪中植物観察会

渡島・檜山

- 北海道立函館美術館(0138-56-6311)  
11.23～1.12 没後20年「中原淳一展」、1.17～25 貸館、1.31～3.24 鶴川五郎展

後志

- (財)北一ヴェネツィア美術館 (0134-33-1717)  
1.15～3月中旬特別展「ヴェネツィアカーニバル展」(仮称)、11月～12月頃 「ガラスの制作体験」
- 小樽市青少年科学技術館(0134-22-0031)  
1.8～11 冬のイベント
- 木田金次郎美術館 (0135-63-2221)  
11.1～3.28 秋から冬を迎える常設展「絵の具の輝き」、11.3 開館記念日アニバーサリーコンサート、12.14 木田金次郎を偲ぶ 第9回「どんざん」、3.9～14 岩内高校美術部OB・OG 第4回「仲間たち展」
- 黒松内町プナセンター(0136-72-4411)  
11.8・12.3・2.14・3.13 わくわく土曜日ランド、11.1～3 移動展示「出前プナセンター」、1.25・2.22・3.21 プナセンター講座、2.28・29 かんじきプナ・ウォッチング
- 小川原橋記念美術館(0136-21-4141)  
11.28～1.18 「動物たちの詩2」、1.22～3.28 「あなたが選ぶ展覧会2」
- 西村計雄記念美術館(0135-71-2525)  
11.7 鑑賞講座「(仮)ママと行くはじめての美術館」、12月初旬 (仮)西村計雄を偲ぶ会、1.4 お正月ダヨ! おやこでつくりたこあげ大会、1.17 たんけん! ハッケン! びじゅつかん、1.24～5月「(仮)彼女たちの肖像」、1.24～5月(仮)「ぼくの航海日記」展、2.7 油彩画体験講座
- 星の降る里百年記念館 (01242-4-2121)  
11月(未定)道写協芦別支部写真展

上川

- 旭川市博物館 (0166-69-2004)  
11.3 アイヌ伝承メノコユール、12.26 もちつきべったんこ、3.16 フチとアイヌ伝承
- 旭川市青少年科学館 (0166-22-4171)  
1.10～11.2004 「科学探検広場」
- 層雲峡ビジターセンター (01658-9-4400)  
3.14 「原生林を歩く」大雪原生林
- 中川町エコミュージアムセンター (01656-8-5133)  
11.1～1.25写真で見ると中川100年物語、3.5～8 森の学校(一般)、3.28～30 森の学校(ジュニア)
- 中原悌二郎記念旭川彫刻美術館 (0166-52-0033)  
12.20～1.25 野外彫刻写真展(仮称)、1.31～終了未定 収蔵品展

- 富良野市博物館 (0167-42-2407)  
2.14～15「北の先史文化フォーラム」、3.14「冬の風穴を見てみよう」
- 留萌
- 増毛町総合交流促進施設 元陣屋 (0164-53-3522)  
3.12～28 企画展「立体写真の世界」(仮称)
- 留萌市海のふるさと館(01644-3-6677)  
2.15 まとめ会、3.28 果箱掛け
- 網走
- 博物館 網走監獄 (0152-45-2411)  
11.9 「親子でつくる味噌づくり」、1月 「手織り体験」
- 美幌博物館 (01527-2-2160)  
11.1～30 交通安全ポスター展、12.14～1.25 寄贈美術資料展、1.20～22 ケンブリッジ町(ニュージージーランド) と美幌の農業、2.8～3.7 冬期作品展
- 北海道立オホーツク流水科学センター (01582-3-5400)  
11.30 オホーツク流水科学講座、12.2～28 北海道写真協会紋別支部写真展、1.10・11 冬休み子ども科学教室、1.10～2.29 流水重さ当てクイズ、1.17・18 ギザ映画会、2.24 ホワイトコンサート、2月中旬 流水写真教室、2月初旬～3月初旬 企画展、3.12～4.11 オホーツクの四季写真展
- 上湧別ふるさと館 J R Y(01586-2-3000)  
2.15～3.15 特別展示
- 北網走北見文化センター(0157-23-6700)  
11.3 科学の祭典、11.15～12.14 勝谷明男・岡崎公輔展、1.31～2.7 斜面400回記念展2.10～2.15 第78回道展北見移動展、2.21～3.21 美術収蔵作品・博物収蔵品展、3.26～28 北海道二科会写真移動展
- 胆振
- 苫小牧市博物館 (0144-35-2550)  
2.28～4.4 博物館所蔵絵画展、11.3・1.10・3.27 映画会
- 登別市郷土資料館 (0143-88-1339)  
11.8 はた織り体験、12.6 包丁とぎ体験、12.13 しめ飾りづくり体験、1.8・9 冬休み工作教室、1.24 資料館の日「昭和初期の食べ物」、2.1～3.3 ひな人形展、2.14 親子ひな人形づくり体験、2.28 資料館の日「登別石林」、3.13 和菓子づくり体験
- 日高
- 静内町郷土館 (01464-2-0394)  
1月 おやこ塾
- 平取町立二風谷アイヌ文化博物館 (01457-2-2892)  
11.1～12.15 北海道遺産としてのアイヌ語地名、2.1～3.21 マカピラ川流域の文化伝承、1.18 記録映画上映会の開催、2.14～15 博物館シンポジウムの開催
- 日高山脈館 (01457-6-9033)  
11.22～23 「野外活動指導者研修会」、12.7 「ひだかの森にすむ鳥たちのふしぎ」、1.25 「雪をつくろう」、2.11 「石けんをつくろう」、3.6 「地球を測ろう」
- 十勝
- おびひろ動物園 (0155-24-2437)  
11.3 動物園フィナーレ、1.23～25 ふゆの動物園
- 帯広百年記念館 (0155-24-5352)  
11.1～30 ロビー展「写真でみる十勝そのとき」、11.9 版画講座「年賀状を作ろう」11.15 博物館講座「アイヌの人たちと野鳥」、12.20 「大地が語る十勝の自然史」、1.17 「趣味の生活化とスポーツの生活化」、1.23～2.11 第22回郷土美術展、2.13～3.3 ひな人形展、2.21 「縄文時代が始まったころ」、2.22 自然観察会「冬の生きものウォッチング」、3.5～28 企画展「若葉の森道踏展」、3.12～17 後期陶芸講座修了作品展、3.20 博物館講座「大昔のとかち」
- 神田日勝記念館 (01566-6-1555)  
11.1～30 神田一明展、12.6～10 町民絵画展、12.8 生誕祭、12.14 子ども芸術鑑賞ツアー、1.6～8 子ども絵画教室、12.26・3.27 子どもワークショップ
- 北海道立帯広美術館 (0155-22-6963)  
11.21～3.24 風景へのまなざし、11.21～28 木のワンダーランド、2.6～3.24 アメリカ現代美術展
- 本別町歴史民俗資料館 (01562-2-2141)  
12.10～1.20 本別公園の草花
- 釧路
- 釧路市立博物館 (0154-41-5809)  
12.26 おそなえもちをつくろう
- 標茶町郷土館 (01548-7-2332)  
2月 第3回軍馬補充部思い出話座談会
- 北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)  
11.8 丹下左膳除話 百萬両の童、12.13 幕末太陽傳、1.10 十七人の忍者、2.14 鞍馬天狗 龍虎虎博の巻
- 根室
- 中標津町郷土館 (01537-2-2190)  
2月上旬 クテクンの滝探検 冬